

<p>会議内容</p> <p>(発言者、発言内容、審議経過、結論等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員紹介 (異動等により変更になった方のみ) 3. 座長挨拶 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 弘前市におけるいじめの防止に向けた取組状況について (2) ひろさき卍 (まんじ) 学テキストについて 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 県立高等学校の改革について (報告) (2) 本会議への意見・提案について 6. 教育長挨拶 7. 事務連絡 8. 閉会 <p>【内容】 (概要)</p> <p>2. 座長挨拶</p> <p>本日の議事の序盤の「弘前市におけるいじめの防止に向けた取組状況について」では、今年度の取組や今後の計画、携帯電話・スマートフォンの市内共通ルールについて事務局から説明と報告がある。またいじめをなんとか未然に防ぐため、委員の皆様の立場から見たご意見を頂きたい。</p> <p>2点目の「ひろさき卍 (まんじ) 学テキストについて」は、前回の会議でテキスト作成について経過報告がなされたが、今回は実物として完成したテキストを皆様の手に取っていただいている。見てみると、例えば第一章の「りんごづくりをさかんにした人」は、討議で出た「なぜりんごが弘前に根付いたか」と関連しているようだし、また、第三章の「弘前城とさくら」では、桜守 (さくらもり) の実態について質問で投げかけて、その後の調べ学習につながるように構成をされているようである。本日は、ひろさき卍学の公開授業の様子も報告される。どのように子どもたちの学習に活用されているか楽しみにしたい。後半では、さらにこのテキストを活用して、より学習してもらいたい分野などをグループで意見交換していただく。</p> <p>委員の皆様は、日ごろより教育についていろいろお考えになっていることと思う。今回の会議でいろんなご提案をいただけると、今後の弘前市の教育に大きく反映されていくのではないのかと思う。限られた時間だが、活発な御議論をよろしく願いたい。</p>
--	---

3. 議事

(1) 弘前市におけるいじめの防止に向けた取組状況について

(学校指導課長)

今年度も子どもの笑顔を広げる弘市民条例及び行動計画による取組を実施する。

①あいさつ運動、ことばをかけて見守る運動

- ・今年度も4・8・1月に強化期間及び市内一斉取組日を設定し、市内各小中学校に周知している。
- ・すでに実施した4月11日の一斉取組日には葛西市長、蛭名・山本両副市長も含め合計1,376名の市民に参加いただいた。本日の委員の皆様の中でもご参加くださった方々も多数いることと思う。
- ・ご覧のように一斉取組日を設定しているので、改めてご協力ご参加をお願いしたい。

②新入学児童生徒に対する条例啓発ロゴマーク缶バッチの配付

- ・これまでも何度か紹介してきたが、今年度も学校を通じて新入学児童生徒、新1年生約2,400名に対して配付している。
- ・引き続き配付し、条例の啓発に努めていきたい。

③いじめ防止標語の募集及びいじめ防止標語ポスターの作成・配布

- ・笑顔条例が制定された平成25年度から附属小・中学校、聖愛中学校も含む市内全小・中学校に、いじめ防止に関する標語の作成を依頼し、応募いただいた作品を教育委員会が審査・選考し、選定された5作品をポスターにして配付している。
- ・配付にあたっては、市内全小・中学校、市役所や公民館などの公共機関約400の各町会を対象とし、それぞれの場所で掲示していただいております。ご覧になった方々が多いと思う。
- ・昨年度から県教育委員会もこのような募集事業を始めているが、今年度も市としていじめ防止及び条例啓発の目的のもと、この事業を考えている。

④弘前笑顔応援団

- ・昨年度、第3回のこの市民会議において「オール弘前でいじめや虐待のないまちづくりを進めるためには」とのテーマで皆様に討議いただいた際に、紹介させていただいた。
- ・その際にもお伝えしたが、笑顔条例制定後、当初の目的を果たすには、今紹介してきた事業に加え、教育に関心の高い弘前市民の思いを一層活かし、発信できる場面を設けることが必要ではないかと昨年度から始めたもの。
- ・具体的には、インターネットも活用しながら、子どもたちの笑顔を広げる「行動宣言」、「メッセージ」を、広く市民の方々から募集し、

市のホームページ等で紹介するとともに、応募したかたには条例啓発用のリングを贈呈するもの。

- ・今年度は6月下旬からの応募受付を予定し、現在その準備をすすめている。委員の皆様にはぜひ気にかけていただき、市のホームページ等でご覧になった際には、子どもたちに向けたメッセージを寄せていただくようぜひお願いしたい。

⑤児童生徒のインターネット利用に関する調査

- ・直接いじめ防止に向けた取組ではないが、ご紹介する。昨年度、第2回のこの市民会議において結果も含めてご紹介したが、今年度もこの調査を行う予定である。
- ・昨年度と同じ調査項目について、全市立小学校4年生以上から中学校3年生までを対象に行う。
- ・この調査は児童生徒のインターネット利用に関する詳しい実態把握を進め、情報を共有することで実態に応じたより効果的な情報教育指導の推進を図ることを目的に行うものであるため、結果については、目的が達成されるように活用、そして周知したい。
- ・同様の調査を継続することで経年の傾向として児童生徒の実態が把握でき、将来的には一層弘前の子どもたちの実態が明確になるものと期待している。
- ・この調査のまさしく活用成果となる児童生徒の携帯電話・スマートフォンの使用に関する市内共通ルールについては、昨年度皆様のご意見を頂き、最終的な形はほぼ完成した。
- ・当初から小中学校長会、ひろさき教育創生市民会議、教育委員会と、弘前市連合PTAの4者連名で発出することを目指しているが、現在、連合PTAの新体制が発足したことを受け、最終の説明をする方向で調整しているため、完了次第、学校を通じて市内に周知する。

○質疑応答（なし）

○座長から

- ・児童生徒のインターネット利用に関する調査について、多角的にみんなで取り組むことが必要に重要だと思う。
- ・そうすることでいじめ防止に関する機運を高める。当たり前のことだが、この機運を高めることが非常に重要で、市民のみなさんが他人事から自分事としてとらえるようになっていく。
- ・そういった意識の変化はもうすでに始まっているかと思うが、これがやはり非常に重要である。
- ・この意識の変化があったときにそれを検証していくのはまた難しい問題

ではある。

- ・しかし、まずは多角的に継続的に取組ということを今後とも責任をもってやっていただきたい。

(2) ひろさき卍(まんじ)学テキストについて(学校づくり推進課長)

- ・昨年度、この市民会議で委員の皆様から「弘前の子どもに知ってもらいたい、学んでもらいたい弘前の魅力」についてグループ討議をしていただき、様々な意見をいただいた。
- ・その中では、キーワードの「お城」や「弘前公園」、「ねぷた」、また、「自らが研究するという学習形態が重要ではないか」といった意見や、「公民館やNPO等との連携」などの意見も出された。
- ・これらの意見をもとに、次の会議では、「ひろさき卍学」テキストの骨子(案)をお示しし、「りんご」「ねぷた祭」「弘前城とさくら」などのジャンルごとにご提案をいただいた。
- ・その意見を参考にし、昨年度末に「ひろさき卍学」テキストパイロット版が完成したのでご報告する。
- ・このテキストのつくりとしては、「このテキストの内容を学ぶ」という形ではなく、このテキストの学びから、さらに社会科副読本の「わたしたちの弘前」や「弘前人物志」などでさらに調べていくことに繋がるようなつくりとしている。
- ・このテキストの学校への配付については、教育自立圏の調査研究校10校には児童生徒数の半数程度配付し、それ以外の学校には、クラスの数分を配付している。
- ・「ひろさき卍学」は来年度の4月から全市立小・中学校へ導入することとしている。
- ・全校への導入にあたり、今報告したテキストの内容をさらに深めたいと考えている。
- ・この後の意見交換前に、実際の学校での授業の様子についてご覧いただきたい。学校、地域によって取組は様々な形にはなるが、本日は、文京小学校の6年生での取組についてご覧いただき、授業のイメージを少しでも持っていただければと思う。
- ・映像は、「授業の導入」、「まんじ学テキストの紹介」、「テキストを使ったクイズ作成」、「振り返り」という流れになっている。

○動画放映

○意見交換（グループ形式）

（座長）

今の動画は、総合的な学習の時間でしょいか。このテキストを用いて授業を展開されていたが、これを参考にしてこれから意見交換に入りたい。グループワークでの意見交換の視点はひろさき卍学テキストで、子どもたちにより深めてもらいたい、それから広げてほしいこと。意見は付箋に記入し、それを最終的に分野別に報告する形をとる。なお、各グループには進行及び報告役として事務局から職員が入る。

※各グループの意見は以下のとおり

○Aグループ（教育政策課長）

- ・総じてこの卍学のテキストについては非常によくできており、導入としてはこれでいい。
- ・ただ、「弘前人物志」や「副読本」とうまく連動するために、例えばテキストの端に人物史のページを入れて、深く勉強したい場合は、そちらを見て自分なりに深めるという工夫も構成で必要ではないか。
- ・ページはあまり増やさない方がいい。
- ・テキストを活用して、様々な場所においてみんなで弘前を学び、それがコミュニケーションツールにもなる。20代の方にテキストを見せたところ、非常に興味を持たれた。
- ・教職員が授業をするのが大変そうなので、効率的な効果的な授業を見据えて早く学習パターンを確立したらいい。これから英語の教科化もあるため、時間数の調整も必要である。
- ・これから加えることとして、「その他」が多かった。その中でも多かったのはこれからの弘前をどうするか、未来のところまで話し合っこそ卍学ではないかということ。今は子ども会が衰退したり、ラジオ体操をやっても誰も来ないという地域コミュニティの関係や、防災・防犯上、それから環境的にも住みよい街とは何かということ。
- ・弘前の自然の視点が欠落してないか。岩木山など。
- ・音文化としては津軽三味線が抜けている。
- ・衣食住でみると郷土料理などの食文化が薄い。
- ・方言が卍学に入っていないのはどうなのか。
- ・「産業」において地域の活性化、経済活性化という視点があってもいいと思う。

○Bグループ（学務健康課長）

- ・「りんご」について、割と歴史的なものが多く書かれてあるが、今りん

この産業が生産から加工などに代わっている。

りんごの後継者問題。例えばりんごを作ればもっと儲かるなど、将来の職業の話につながればいい。

- ・「郷土の偉人」について、例えば音楽室には有名な作曲家の写真があり、ベートーベンやシューベルトは覚えると思うが、それと同じように学校に弘前の偉人を写真と解説付きで置けば自然と覚えるのではないか。

郷土出身者のものをもっと読むように、そういうコーナーを作ってはどうか。

- ・「歴史」について、弘前には多くの重要文化財があるからもっと載せてはどうか。特に弘前厚生学院をぜひとも載せてもらいたい。

それから古い建物が、なぜここにあるのか歴史的背景から入ってもいいのではないか。

歴史的建物を大切にすることも教えてはどうか。

- ・「産業」について、こぎん刺し、津軽塗も割と古いことで記載されているが、現代アートの的に取り組みまれて引き継がれている部分も触れてはどうか。

りんごも加工に力を入れているのでそれに触れてもいいと思う。

- ・「その他」が多くなったが、このテキストを通じて調べ学習につなげていけるように、どこに行ったら調べられるかが、記載されてもいいと思う。

それに伴って、学校図書館や弘前図書館、郷土文学館でもこのテキストに準じて、そういうコーナーを作り、子どもたちが学習しやすい環境整備を進めてはどうか。

今回のテキストは紙だが、タブレットにもデータを入れて持って歩くという工夫をし、例えばクイズ方式にしてこの問題がわかったら次の問題にいけるという方法はどうか。

それから表紙や中身の途中で、こぎん刺しの模様を使っているが、その辺もこぎん刺しだともう少し分かるようにしたらいい。

- ・コラム・キーワードに関して、次の調べ勉強の展開のことを書いているが、もう少し量を増やして、こういう勉強の仕方があるということも書いたらどうか。
- ・このテキスト自体が弘前の観光パンフレットにもなる。インバウンド政策もやっているが、これを中国語・韓国語にしてもいい。逆に子どもたちが他のことばで話せばこうなるという展開もできると思う。
- ・津軽弁に関して触れられていない。

〇〇グループ（生涯学習課長）

- ・このテキスト自体は、かなりよくできている。これ以上広げたり、深め

たりというようなことはない、という意見もあった。

- ・このテキストの内容は学校での授業で、少なくとも年間で3時間以上は必要である。「その他」までいれると分野が7つになるが、小学3年生から始まって中学3年生までだと7学年ということになるので、それぞれの分野を学年で絞ってやればいいのではないか。

今年度からの試みなので、その辺は各学校の先生に任せて、その学年に合わせながらやった後にでも、現場から挙がった意見から直していけばいいのではないか。

- ・ここを深めたい広めたいという意見よりも、こういうことがもっと書かれてほしいという意見・要望が多かった。

例えば「弘前城とさくら」については、弘前城には桜以外にもっと植物があること。

岩木山神社、嶽きみとかの記述がない。

旧岩木・相馬の記述が足りないのではないか。

- ・オリンピックに出場した人は結構いるので「郷土の偉人」に加えたらいけないのではないか。
- ・「歴史」について、和徳城のことについても載せたほうがいい。
- ・「産業」については、りんごだけではなく、米も少しは載せておいた方がいい。
- ・「その他」について、弘前市には岩木川とか様々な川があるということで、川の紹介。

交通機関も国道や鉄道の紹介。

学都弘前と呼ばれているので学校のことも載せてはどうか。

- ・テキストの使い方として、テキストに載っていることはこのままでいいが、どのように発展させて、方向性をどうもっていくのか考えながら進めていけばいい。

ODグループ（文化財課長）

- ・全体的はもう少しマンガを取り入れて分かりやすく紹介してもよいのではないか。

- ・「りんご」について、ただりんごを紹介するだけではなく、やはりりんご農家を後継する人が少なくなっている大きな問題もあることにつなげればどうか。

りんごを實際作るあらゆる工程を体験してもらい、大変な作業ではあるが、その大変な作業の中から実ったときの喜びを感じとれるようなところまで、このテキストからつながる仕組みが作られたらいい。

- ・「ねふた」について、灯籠などのいろいろなことばがイメージしづらい。灯籠の写真などがなく、そういうイメージしづらいところは、イラスト

やマンガを取り入れるなどして紹介してはどうか。

嚙子などについても、学校で何かやれるような誘導がないか。

実際、ねぶたを学校で作れるようなサポーターをこの中で紹介するなど、学校ぐるみでねぶた作りができるようなテキストの作りこみがあってもよいのではないか。

知識を深めた上で、例えば県外に行ったときに弘前のねぶたの良さを伝えられる学びができないか。

- ・「弘前城とさくら」について、例えば弘前城の石垣で、こんな石積みがあるなどのプチ情報も入れながら、弘前城に行きたくくなるような記述があってもよい。

日本に12しかない天守の1つなので、その辺をもう少しPRしてもよいのではないか。

桜の管理についても日本一の剪定作業で桜を維持しているので、そのことを知る、体験するような進め方がないか。

単に弘前城を紹介するのではなくて、城下町の弘前の庶民はこんな生活をし、お城では武士がこういうものを食べていた、殿様はどうだなど、そういうことを含めた全体的な江戸時代の街が、今の弘前の街づくりの基本になっているので、そういうことも記述すればどうか。

- ・「郷土の偉人」について、偉人が沢山いるので、もっと一人ひとりのスペースを小さくして、より多くの人を紹介し、そこから子どもたちが更に踏み込んで、個々の人を勉強して行けるようにできないか。
- ・「産業」については、例えば津軽塗にしてもこういう津軽塗があるという製品の紹介だけでなく、その歴史も少しは紹介し、より深められるように誘導できないか。

○全体での意見交換（なし）

※時間の都合上、特に発言したい意見のみとした。

（座長）

- ・かなりグループごとに活発に議論がなされていたと思う。今日はなかなか難しいと思って聞いていた。
- ・まず、ビデオを見て、地域の題材を扱うということで子どもたちの興味関心の度合いというのが非常に高いと感じた。そういう意味では小学校から中学校まで体系化した学習ができると、郷土愛を育むことが可能だと感じた。
- ・その一方で、学校だけでは限界があるのではないかとということも感じている。そんな中で今日皆様がそれぞれの立場から、学習の深め方、学習パターン、教師の学習の進め方・教え方、そして学習を進める上での教

育理念のところまで御議論を頂いて、子どもたちに何をつかんでもらうか、そしてそのためにはどうするのか、学習後の子どもたちのあるべき姿はどうか、というところまで具体的なヒントを頂けたのではないかと考えている。

- ・スタートしたばかりで、このテキストのベースはいいのではないかと、という皆様の評価だったが、私としては、今後多くの場所でこの内容に関して議論を続けることが重要かと思う。
- ・卅学については、みんなで育てる学習内容だと今考えている。今後も皆様からこの市民会議とは別に教育委員会のほうにご意見を寄せいただければと思う。

5. その他

(1) 県立高等学校の改革について (学校づくり推進課長)

- ・義務教育終了後、県内99%の生徒は高校や専修学校等に進学しており、本市では、中学校を卒業する生徒が進学する高校が充実した教育環境になるように、これまでも県に対して要望してきたところである。
- ・現在、県教育委員会では、高校の統廃合を含む第1期実施計画(案)の策定を進めており、今回、示されている計画(案)と市の要望について、委員の皆様にご報告したい。
- ・県教育委員会では、昨年8月に平成30年度から10年間の基本方針を定め、この基本方針に基づき30年度からの5年間の第1期実施計画を今年の7月に公表することで作業を進めている。
- ・この示している計画(案)は、今後の生徒数の減少の見込み等を踏まえ、中南地区では5学級の削減を示している。
 - ①黒石高校と黒石商業を統合し、新設校を開設することで3学級を削減すること。
 - ②弘前実業高校農業経営科を募集停止し、柏木農業高校へ集約ことで、1学級を削減すること。
 - ③弘前工業高校インテリア科を建築科へ統合し1学級を削減ということで計5学級の削減ということ。
 - ④弘前工業高校定時制の工業技術科を募集停止し、閉課程とする案も併せて出されている。
- ・資料の下のほうには今説明した学校や学科の配置を示しており、表の40や35の数字は、1クラスの定員数である。
- ・この計画(案)に対し、当市の基幹産業である農業を学ぶ教育環境が弘前市からなくなることや、津軽塗やブナコなど、当市の「ものづくり」の技術者が地域の経済産業を支えている中において、県内唯一の学科で

あるインテリア科がなくなることで、人を育てる教育環境がなくなる。
さらには、市内から様々な事情で全日制に通えなくて、定時制で学ぶ生徒の教育環境がなくなるということもあり、これらの計画（案）に対して公表直後に教育長コメントを出して、反対の意向を示している。

- ・先日、市長と教育長の連名で、意見要望書を県教育委員会に提出してきた。
- ・今後県の重点要望として、市をあげて計画（案）の見直しを要望していく。
- ・既に、県の計画に対する地区の懇談会やパブリック・コメントは終了しているが、公表される7月までは市としてさらに地域の声を届けていきたい。

○質疑応答（なし）

（2）本会議への意見・提案について（司会：学校づくり推進課長補佐）

※ 今後の会議の運営の参考とするため、委員にこれから取り挙げたいテーマや討議の方法等を踏まえて、この市民会議について意見・提案を求めた。

（委員）

- ・運営の仕方は、今日のグループ方式が皆様の声が聞けて良かったのではないかと思う。
- ・私は人権に関わる団体に所属している。いじめの29年度の今後の取組・計画などで児童生徒のインターネット利用に関する調査をやっていると報告があったが、保護者が子どもに任せきりなのが問題だと思う。
- ・それをどこで啓発するかが問題ではないか。携帯電話等を持たせるときにやってはいけないことを約束しているが、子どもがフィルタリングをやめたりして、様々問題が起きている。
- ・そこをなんとかしないといけない。私たちの団体では人権作文は中学校、それから人権教室の出前授業でやっていて、かなり意識も高くなってきており、いじめ防止につながっていると思う。人権教室は附属小を含む36校中21校の6割まで実施できた。作文コンテストは附属中も含めて17校中13校の7割。
- ・書くことで人権を考えることができ、いじめ防止につながるということで、ボランティアで協力している。
- ・出前授業をして思ったが、保護者をどう啓発するか、保護者にはアンケートをとる必要があるのではないかと思った。

(委員)

- ・広報ひろさきで成人された方のコメントを見ると、例えば弘前にディズニーランドやUSJなどの遊園地があるといいというのが結構多い。
- ・これは20歳だけでなく、高校生からおそらく30代近くまでそういった意識があり、「弘前がこうなればいい」という意識がないと思う。
- ・それを考えたときにやはり、この卅学で歴史などを学び、それ以上に、例えばねぶた、りんご、桜まつりはどういうふうになっていけばいいか、という未来を想像できる子どもの教育、方向性をこの卅学を通して導いていくことが急務だと思う。そういう段階に来ていると思う。
- ・高校の縮小の報告があったが、小学校はもう毎年のように縮小の状況にある。
- ・私は保育関係者だが、やはりこの地元で務める保育士・保育教諭という存在もどんどん県外に流出している。今までは、そのまま流出しても仕方がない、県外のほうが収入を得られるからだった。
- ・しかしこれからは小学校、中学校の段階からしっかりと将来を見据え、もし県外に行っても「また弘前で」という気持ちになるような教育、そういうことをこの市民会議の中でもグループワークで検討できることが理想だと思う。
- ・うちの園の子どもたちは年長になると「大きくなったら何になる？」というお話もするが、弘前らしい夢としてねぶた絵師になりたいという子もいる。最近であれば、弘前公園の桜を守りたい、そういう子も。珍しいが、桜まつりのときにある迷路、それを作る人になりたいという子もいる。
- ・やはり弘前に特化したそういう夢を持つ子どもたちがいること、そして小学生、中学生になってもそういう気持ちでいられるような、私たちの意識、環境づくりをこれからも大事にしていきたい。そういう市民会議になればと思う。

(委員)

- ・市におけるいじめの防止に向けた取組の紹介があったが、この会でもう少し具体的な話をされてもいいと感じる。
- ・報道を見ていると、自殺した子どもの家族の思いと現場の先生方や教育関係者の思いに差がある。現場的には認めたくないのか、いじめはあったが、自殺とは因果関係がはっきりしないと言う。亡くなった子の親からすれば、いや、これがきっかけの引き金になったのでしょうか、と。
- ・いじめを防止するにはどういう対応をしたらいいのか、自殺まで追い込まない、未然に防ぐ方法を真剣に協議したらいいと感じた。

6. 教育長挨拶

本日は、お忙しいところ御出席いただき、たくさんの貴重な御意見をいただいた。心から感謝申し上げます。

委員の皆様は、平成27年度第2回目からこれまで6回の会議を開催してきたが、9月2日をもって2年間の任期が満了となり、本日は任期最後の会議となる。

今日はいじめの問題とそれからひろさき卍学について議論していただいた。

議論していただき、こういうパイロット版という形で卍学のテキストができた。なぜ卍学なのか、ということについては、弘前の子どもたちが弘前のことについて何も知らないのではないか、何もわからないのではないのかという声が随分あり、やはりこれからもっと子どもたちに弘前に誇りをもって、自分たちの弘前を大事にしていくのだ、という思いを持たせたい。

そのためにはまずは知識として子どもたちにいろいろなものを教えること、学ぶことが大事ではないかということで、ひろさき卍学という名前を付けた。

これからの未来を生きていく子どもたちをどういうふうに育てていくのか、将来の弘前を作っていくための方向性の話も先ほどあったが、まずはその前に弘前についてきちんと知ること、学ぶことをベースにし、そこから次に進んでいくのではないかなと思う。

基礎的なこういうパイロット版という形でテキストを作ったが、今日皆様からたくさんの意見を頂戴し、これをまた更に活かしてパイロット版から本番を作っていきたい。

テキストの最後のところに、参考文献ということで8つ書籍を挙げているが、実は子どもたちにこんな本があるということを伝えるために、もっと本当は載せたかった。

そして、ぜひ各学校の図書室に卍学コーナーを作って、そこにそういう本を揃えて、子どもたちが図書室でいつでも調べられるようにしたいと考えている。

小学校4年生用に「わたしたちの弘前」という大変立派な冊子があるが、これは私たちの毎日の暮らしのこと、基礎的なりんごや歴史が載っている。

それが卍学と中身がダブって勉強していいのか、もう少し整理する必要があるとも思っている。

今日はたくさん貴重な御意見を頂き、そうだと思うことが私もたくさんあった。ぜひまた皆様から頂戴した御意見から本番に向けて改善し、これから学校現場で使いやすいようにしていきたい。

出張等でふるさと学習をやっているところに行き、テキストやいろんな

資料もらうが、一番立派だったのが金沢だった。弘前でやっている弘前検定のジュニア版みたいなものを作って、それからカリキュラム、何年生ではどうやればいいということも、冊子にしてあり、大変参考になるものだった。こうしたものを参考に改善し、またこれから取り組んでいきたい。

さて、もう一つ、いじめの防止に向けた取組状況について説明したが、残念ながら、いじめによって子どもたちが命を絶つということなど深刻な社会問題となっている。

この市民会議は「いじめ問題対策連絡協議会」という役割も果たしているので、会議で広く皆様の意見を頂いて、いじめのないまちづくりに繋がっていくように、今後も取組を進めていきたい。

2年にわたり貴重な御意見を賜ったことに改めて感謝申し上げます。今後も委員の皆様の御活躍を祈念して結びのご挨拶とする。

7. 事務連絡

○社会学テキストについての補足（学校づくり推進課長）

グループワークの中で、これをコピーして他のかたへも伝えたいというご意見を伺ったが、まだパイロット版で完成形でもないし、著作権の問題もクリアしていないので、その辺は差し控えていただき、確認し次第、コピー可能であればご案内したい。

※次第の裏面に今後の会議の日程について記載していること、アンケート用紙の記入について連絡した。